

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	文章表現2 (Sentence Expression 2)		
ナンバリングコード	B20508	大分類 / 難易度 科目分野	教養教育科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A034401	クラス名	-
担当教員名	東寺 祐亮、淵上 千香子、衛藤 恵理香		
履修上の注意、履修条件	文章表現・文章表現基礎講座を履修していること (この授業は文章表現・文章表現基礎講座を土台にした応用講座です。必ず文章表現・文章表現基礎講座を受講してください。)		
教科書	なし(各回で資料を配布します)		
参考文献及び指定図書	『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里・平尾得子・由井紀久子, くろしお出版		
関連科目	基礎学力講座(国語)、文章表現基礎講座、文章表現、社会参画入門、社会参画応用		

○基本情報							
授業の目的	みなさんはさまざまな場面・媒体で「自分の考えを伝えること」や「相手の考えを読み取ること」が求められます。どちらについても、文章で伝えることは主要な手段の一つです。大学生以降、文章で伝える場面の例を挙げると、レポート・卒業研究・エントリーシート・報告書など、さまざまなものがあります。これらの場面では、誰かが書いた文章を踏まえて作成することがおいため、同時に「相手の考えを読み取ること」も求められます。 そこで本授業では、文章から「相手の考えを読み取る力」を身につけることと、文章で「自分の考えを伝える力」を身につけることを目的とします。 ※この授業は、論理的思考力を養う科目に位置づけられています。						
授業の概要	本授業では、「相手の考えを読み取る力」を身につけるための読解演習と、「自分の考えを伝える力」を身につけるための作文演習を行います。 読解演習では、予習で課題文を読み、その予習内容を元にディスカッションを行います。ディスカッションで他者の読解内容を知り、理解を深めることで、文章を批判的に読む力を身につけます。作文演習では1500字作文と2000字作文を行います。1500字作文では、1年時の文章表現で学習した内容を振り返り、文章作成の基礎を固めます。2000字作文では、テーマ決め・先行事例の検討などより発展した文章作成を行います。 本授業では、上記学習内容を講義とグループ学習を中心に進めます。比較検討、他者との意見交換を通して、文章を改善するだけでなく、自己理解・他者理解を深めます。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「演習形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「グループワーク」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「演習形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
(1) 授業の形式	「演習形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」						
地域志向科目	該当しない						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	自身の長所や短所について考え、その性質とこれまでの行動を関連付けることができる。		20点	10点
【知識・理解】	・場面に応じて必要となる文章タイプを説明できる。 ・表現できない場合に調べることができる。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	・伝えたいことを、相手に伝わるように正確に表現できる。 ・場面に応じて必要となる文章の構成を検討することができる。		20点	10点
【思考・判断・創造】	・相手に伝えるために効果的な表現・構成を選ぶことができる。 ・論理的な結びつきに注意して作成・推敲できる。		20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・Googleクラスルームを利用して資料配付・課題提出・課題返却などを行います。 ・予習ワークなどの提出物も評価に含みます。 ・グループ活動への参加も評価します。 ・課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や配布物はクラスルームを利用するため、授業でPCを使用します。PCがない場合、課題を提出できないことがあります。 ・予習と復習を前提とした講義です。 ・回によっては予習を前提にグループワークを行います。責任を持って取り組んでください。 ・文章表現基礎講座で使用した自主学习支援サイトは、レポートの書き方のヒントになります。サイトを活用してください。サイトについては授業中に案内します。

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	文章表現2 (Sentence Expression 2)	授業コード	A034401
	担当教員	東寺 祐亮、瀧上 千香子、衛藤 恵理香		
学修内容				
1. ガイダンス《東寺》 この授業の目的・到達目標・内容・評価方法等について説明します。 必要に応じてアンケート調査等を行います。				
予習	シラバスを読んで授業内容を把握する。		約2時間	
復習	授業の進め方を確認して課題文を読む。		約2時間	
2. 文章読解とディスカッション1①《東寺》 文献読解をもとにしたディスカッションの前半(step1~4)を実施します。課題文は短めの論説文です。				
予習	課題文を読んで予習ノート(step2~4)を埋める。		約2時間	
復習	ディスカッションを踏まえて課題文を読み直す。		約2時間	
3. 文章読解とディスカッション1②《東寺》 文献読解をもとにしたディスカッションの後半(step5~8)を実施します。				
予習	課題文を読んで予習ノート(step5~7)を埋める。		約2時間	
復習	ディスカッションを踏まえて課題文を読み直す。		約2時間	
4. 読解内容を文章としてまとめる《東寺》 ディスカッションを元に読解内容をレポートとしてまとめます。				
予習	課題文と予習ノートを見直す。		約2時間	
復習	授業中に作成したレポートを完成させ、文章のつながりを確認して提出する。		約2時間	
5. 文章読解とディスカッション2《東寺》 文献読解をもとにしたディスカッションの前半(step1~8)を実施します。課題文は短めの論説文です。				
予習	課題文を読んで予習ノート(step2~7)を埋める。		約2時間	
復習	ディスカッションを踏まえて課題文を読み直し、レポートを作成・提出する。		約2時間	
6. アカデミック・ライティングの基本スキル《衛藤》 以下の内容について理解を深め、演習問題に取り組みます。 ・書き言葉と話し言葉、文体の統一 ・アカデミック・ワード ・順序を表す言葉、接続詞				
予習	これまで学んだライティングの基本的なルールについての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
7. わかりやすい文章を書く方法《衛藤》 以下の内容について理解を深め、演習問題に取り組みます。 ・概観と詳細 ・主語と述語の対応 ・文法的正しさ				
予習	これまで学んだ文章の書き方についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
8. レポート・論文とは何か《衛藤》 以下の内容について理解を深め、演習問題に取り組みます。 ・具体と抽象、下位語と上位語 ・主観と客観、意見と事実 ・情報の活用、グラフの読みとり				
予習	これまでのレポートを書いた経験をふり振り返り、レポートとは何かについての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	

○授業計画	科目名	文章表現2 (Sentence Expression 2)	授業コード	A034401
	担当教員	東寺 祐亮、瀧上 千香子、衛藤 恵理香		
学修内容				
9. レポート・論文を書くための文章構成《衛藤》 以下の内容について理解を深め、演習問題に取り組みます。 ・序論・本論・結論の三部構成 ・主張・理由・具体例のつながり				
予習	これまでのレポートを書いた経験をふり振り返り、序論・本論・結論の三部構成についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
10. レポート・論文の決まりごと《衛藤》 以下の内容について理解を深め、演習問題に取り組みます。 ・引用の方法 ・注のつけ方 ・参考文献リスト				
予習	これまでのレポートを書いた経験をふり振り返り、レポート・論文の決まりごとについての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
11. 最終レポートのテーマと形式を選定する《瀧上》 テーマを選定する。素朴な疑問から概略的知識を検索エンジンや事典により得る。その後、データベースによる文献検索を行い、参考にする資料を選定し読み込む。先行研究や先行事例、実践を参考にしながら、実践報告、実験レポート、論文(論述)の中から、自らの書くレポートの形式を決定する。				
予習	最終レポートで問題にしたいテーマを考えておく。		約2時間	
復習	追加で情報収集を行っておく。		約2時間	
12. 先行研究や先行事例、実践をまとめてレポートの書き出しを書く《瀧上》 先行研究や先行事例、実践の内容をまとめ、主題文を含むレポートの書き出し、「序論」や「はじめに」を執筆する。形式については、教員が提示するフォーマット例または先行研究や先行事例、実践そのものを参考にする。				
予習	先行研究や先行事例、実践に書かれている内容をまとめておく。		約2時間	
復習	「序論」や「はじめに」がテーマに沿っているか確認し、修正を行う。		約2時間	
13. アウトラインとタイトルを作成し、レポートのメイン部分を書く《瀧上》 教員が提示するフォーマット例または先行研究や先行事例、実践を参考にし、アウトラインを作成し、タイトルをつける。書きやすい部分からレポートを執筆する。				
予習	先行研究や先行事例、実践をもとにアウトラインを考えておく。		約2時間	
復習	執筆内容がアウトラインと整合性があるか確認し、修正を行う。		約2時間	
14. レポートのメイン部分を書く《瀧上》 教員が提示するフォーマット例または先行研究や先行事例、実践を参考に、レポートの書き終わり、「結論」や「おわりに」を執筆する。レポート全体の自己点検を行い、できれば時間をおいて第三者的に読み返し、推敲する。				
予習	「結論」や「おわりに」の部分を構想し、下書きしておく。		約2時間	
復習	2000字以上のテーマに沿った文章を作成する。		約2時間	
15. レポートの書き終わりの部分を書き、レポート全体を推敲する《瀧上》 教員が提示するフォーマット例または先行研究や先行事例、実践を参考に、レポートの書き終わり、「結論」や「おわりに」を執筆する。レポート全体の自己点検を行い、できれば時間をおいて第三者的に読み返し、推敲する。				
予習	「結論」や「おわりに」の部分の構想し、下書きしておく。		約2時間	
復習	2000字以上のテーマに沿った文章を作成する。		約2時間	
16. なし				
予習			約2時間	
復習			約2時間	